

足元の米国クレジット市場の 変化に思うこと

株式会社みずほ銀行
証券部長

大 類 雄 司



最近、米国の資本市場で、低格付企業の資金調達動向やそれを取り巻く市場環境に注目が集まっている。例えば、信用リスクが相対的に高い企業向けに提供される、いわゆるレバレッジドローンの増加とこれを裏付資産とするCLO（Collateralized Loan Obligation：ローン担保証券）市場拡大の影響などが、各国中央銀行調査などでも取り上げられている。また、米国資本市場で独特の存在感を有してきた、いわゆるハイイールド債市場（HY債：投資適格未満の評価をされている債券）は比較的安定的に推移している一方で、投資適格ゾーンにおけるBBB格社債は大幅に増加し、米国のクレジット市場の構造が変化してきていることも話題になっているようだ。

今後の経済環境を展望し、仮に何らかの危機的状況が発生した場合に、資本市場や金融システムに与える影響をどのように捉えるべきか、が議論の焦点である。なお、同じ金融資本市場をめぐる議論でも、金融危機時に最大の関心事となったモーゲージ（Mortgage：住宅ローンもしくはその証券化商品）市場は、政府系機関の関与の下、引き続き市場で大きな役割を担いながら、安定的に機能（＝過剰なレバレッジなどは存在しない）していると見られており、こうした議論の対象になることは少ないようだ。